

全財務局 管内経済情勢報告

	前回（6年4月判断）	今回（6年7月判断）	前回との 基調比較	全局総括判断の要点
全局総括	一部に弱さがみられるものの、 <u>緩やかに回復しつつある</u>	一部に弱さがみられるものの、 <u>緩やかに回復しつつある</u>	➡	個人消費は、物価上昇の影響等がみられるものの、緩やかに回復しつつある。生産活動は、一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響等がみられるなか、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに改善しつつあるが、企業の人手不足感はまだ強まっている。
財務局名	前回（6年4月判断）	今回（6年7月判断）	前回との 基調比較	各財務局の総括判断の要点
北海道	<u>緩やかに持ち直している</u>	<u>緩やかに持ち直している</u>	➡	個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。観光は、緩やかに持ち直している。
東北	<u>持ち直している</u>	<u>持ち直している</u>	➡	個人消費は、回復に向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、生産用機械が海外メーカーで設備投資の動きがみられることから持ち直しつつあるほか、電子部品・デバイスがスマートフォン向けなどで持ち直しの兆しがみられるなど、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
関東	<u>持ち直しのテンポが緩やかになっている</u>	<u>持ち直しのテンポが緩やかになっている</u>	➡	個人消費は、物価上昇の影響がみられるなか、回復に向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、輸送機械などが増加しているものの、生産用機械、電気機械などが減少しており、弱含んでいる。雇用情勢は、人手不足を背景に企業の採用意欲が高い状況にあるなか、改善しつつある。
北陸	令和6年能登半島地震の影響は残るものの、復旧・復興需要や北陸新幹線の敦賀延伸効果等もみられることなどから、 <u>緩やかに持ち直しつつある</u>	令和6年能登半島地震の影響は残るものの、復旧・復興需要や北陸新幹線の敦賀延伸効果等もみられることなどから、 <u>持ち直しつつある</u>	↩	個人消費は、地震の影響は残るものの、復旧・復興需要や北陸新幹線の敦賀延伸効果等もみられることなどから、持ち直している。生産活動は、地震後の復旧が進んでいることなどから、持ち直しつつある。雇用情勢は、地震の影響により一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している。
東海	<u>回復の動きに一服感がみられる</u>	<u>回復の動きに一服感がみられる</u>	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、緩やかに改善している。
近畿	一部に弱さがみられるものの、 <u>緩やかに回復しつつある</u>	<u>緩やかに回復しつつある</u>	➡	個人消費は、人流の回復やインバウンドの増加により、緩やかに回復しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
中国	一部に弱さがみられるものの、 <u>緩やかに回復しつつある</u>	一部に弱さがみられるものの、 <u>緩やかに回復しつつある</u>	➡	個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。生産活動は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
四国	<u>持ち直している</u>	<u>持ち直しのテンポが緩やかになっている</u>	↩	個人消費は、観光が緩やかに回復しているものの、スーパーやコンビニエンスストアが底堅いものとなっていることから、全体としては持ち直しのテンポが緩やかになっている。生産活動は、汎用・生産用機械で持ち直しのテンポが緩やかになっているものの、食料品が緩やかに持ち直しているほか、非鉄金属が回復しつつあることから、全体としては一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
九州	<u>回復しつつある</u>	物価上昇の影響がみられるものの、 <u>回復しつつある</u>	➡	個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、回復しつつある。生産活動は、海外経済の減速などの影響がみられるなか、横ばいの状況にある。雇用情勢は、持ち直している。
福岡	一部に弱さがみられるものの、 <u>緩やかに回復しつつある</u>	一部に弱さがみられるものの、 <u>緩やかに回復しつつある</u>	➡	個人消費は、物価上昇の影響等がみられるものの、緩やかに回復している。生産活動は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
沖縄	<u>回復しつつある</u>	<u>回復しつつある</u>	➡	個人消費は、緩やかに回復している。観光は、回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。

（注） 6年7月判断は、前回6年4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断。
下線部が基調判断。